

3月テキスト

聖書は「**ただイエス・キリスト**」についての話です。私たちは、聖書を通して、ただイエス・キリストを発見する力を得ることが大事です。聖書のどこを開いても、「イエス・キリストの話」を発見しましょう。今月の人物を通して「ただイエス・キリスト」を発見して、神様がなさるみわざを見ましょう。

各課の内容は、テキストで黙想しましょう。それぞれのフォーラムのポイントを出します。

2課 あらかじめ征服したダニエル

「どんな定め？」

ダニエル 1:8 に「ダニエルは・・・心に定め」とありますが、偶像にささげた食物を食べないということを「定めた」ではありません。いまがバビロン捕虜の時代と同じ時代です。その時代に、私たちはどんなことを心に定めるべきなのでしょう。そのことを考えてみましょう。

箴言 16:9

人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。

どれだけ、私たちが神様の前で決断して、「こんな人になりたい」「神様のために、このような人になります」と決断をして祈っても、それが神様のみことと合わないなら、その決断はむだになります。神様と方向がちがうので、それは神様が喜んでくださることではありません。ですから、私たちががんばって、「神様のために、こういう人になり、このようなことをします」と決断するより、「神様が願われることがなにかに従って、私は神様のみことばどおりに生きるレムナントになります」という祈りをするのが大切です。



この世には、素晴らしい人がたくさんいます。いま、戦争が起こっていて、多くの人が寄付したり、戦争をいっしょに戦おうと決断する人もいますが、しかし「その人の歩みを確かなものにするのは主である」ということばを心に刻みましょう。「**私の人生は、神様の願われる道に従っていく人生になるように**」と祈りましょう。

ダニエルは、自分が獅子の穴に投げ込まれることを知っていても、関係なく祈りました。自分は生きること、死ぬこと、関係なく神様に従いますということです。パウロも同じでした。パウロは次のように告白しました。

ピリピ 1:20-21

それは私^{わたし}の切なる祈^{せつ}りと願^{いの}いにかなっています。すなわち、どんな場合^{ばあい}にも恥^はじることなく、いつものように今^{いま}も大^{だい}胆^{たん}に語^{かた}って、生^いきるにも死^しぬにも私^{わたし}の身^みによって、キリストがあがめられることです。

私^{わたし}にとっては、生^いきることはキリスト、死^しぬことも益^{えき}です。



パウロという存在^{そんざい}は、すでにキリストによって死^しんだと告白^{こくはく}します。(ガラテヤ 2:20)

ガラテヤ 2:20

私^{わたし}はキリストとともに十字架^{じゅうじか}につけられました。もはや私^{わたし}が生^いきているのではなく、キリストが私^{わたし}のうちに生^いきておられるのです。いま私^{わたし}が肉^{にく}にあつて生^いきているのは、私^{わたし}を愛^{あい}し私^{わたし}のためにご自身^{じしん}をお捨^すてになった神^{かみ}の御^み子^こを信^{しん}じる信^{しん}仰^{こう}によっているのです。

私^{わたし}の中^{なか}にはキリストが生^いきておられて、自分^{じぶん}は死^しんでいますということです。ですから、「私^{わたし}は生^いきるにしても、死^しぬにしても、私^{わたし}の身^みによってキリストのすばらしさがあらわされることを求め^{もと}ます」という告白^{こくはく}です。

これから自分^{じぶん}はどれくらい生^いきるのでしょうか。いつかそれはわかりません。私^{わたし}の残^{のこ}りの人生^{じんせい}が、どうであっても、私^{わたし}を通^{とお}して「イエス・キリストだけがあらわされることを求め^{もと}ます」という課題^{かだい}をもつて祈^{いの}りましよう。